C　受託事業

事業名		趣　旨　・　目　的	事　業　内　容	実施時期	過年度の改善点
（1）青少年自立・再学習支援事業	① Ｇ－ＳＫＹ Ｐｌａｎ	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなど、不登校やひきこもりからの立ち直りや社会的自立を支援する。また、高校中退者等の再学習の相談・支援体制の充実を図り、各種情報の提供や学習相談を行う。	･コーディネーターの配置 ･青少年とその保護者･学校からの相談対応 ･体験活動受入事業所等の情報収集、連絡調整 ･体験活動のコーディネート ･再学習支援のための各種情報の収集、提供	通年（相談・面談・体験） 合同会議（4 回） 4/15（金）、7/7（木） 12/9（金）、3/8（水） 進路相談会（2 回） 8/28（日）、10/22（土）	前橋市、渋川市の民生委員へ広報活動を行った。また、県社会福祉協議会、前橋市社会福祉協議会等を訪問し、職員や関係団体に事業説明を行った。進路相談会の参加校を増やすため、群馬県私立通信制高校等連絡協議会と情報交換を数回行い、協力校との調整を進めた。
	② 地域における学びを通じたステップアップ支 援促進事業	高校中退者等を対象に、高等学校卒業程度の学力を身に付けるための学習相談及び学習支援を行う。	･学習相談 　学びに応じた教科書や副教材の紹介、高卒認定試験の紹介、教育機関や修学のための経済的支援の紹介等 ･学習支援 　青少年会館を活用し、高卒認定試験等の受験を目指す学習者に対して個別に学習支援を行い、学習者の自立を促す。	学習相談・支援等 4/1 ～ 3/14 学習会 60 回	相談者には学習会の他、面談及び相談で学習支援を行った。また、支援員の大学生から奨学金の情報や学生生活の様子を相談者に伝える機会を設けた。

Ａ　指定管理事業

(1)　青少年等の活動場所の提供事業

群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）の設置目的・業務に添った運営を行うべく、施設の利用については、青少年の育成に関する諸事業並びに青少年及び青少年関係団体、学校等の自ら企画した事業等の活動場所の提供事業と位置づけ、当事業団の公益目的事業として運営を行った。

・設置目的
青少年団体活動の振興及び青少年の健全な育成を図るため設置
（群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）第2条）

・業務
青少年の健全な育成を推進するための業務、青少年団体の育成
（設管条例第2条の2）

・施設概要
敷 地 面 積：８，８６２㎡
建築延べ面積：３，６７６㎡（本館２，７４６㎡　新館９３０㎡）

・指定管理期間
令和２年４月１日～令和７年３月３１日（５年間）

・管理運営体制
ａ　組織体制
事務局の責任者は常務理事(館長)とし、総務課と企画課の２課、群馬県青少年会館事業所に管理事業課を置く。
総務課３名(含：兼務２名)、企画課３名(含：兼務１名)、管理事業課６名(含：兼務３名)（非常勤職員除く）
ｂ　適切な職員の配置
企画課及び総務課に、社会教育主事有資格者を４名配置した。主催事業の充実を図るため、そのうち１名を青少年教育主事として独自に発令した。総務課には、簿記等その業務に必要な有資格者を３名配置した。
ｃ　職員の資質、知識向上
各職員への全体研修、利用者対応に関する研修、安全管理研修、他施設との合同研修、青少年健全育成事業のための技能向上研修など、内部、外部の研修・訓練等を実施し、職員の資質向上に努めた。

①　サービス向上の取り組み

ア　接遇研修

講　師：(株)アクロスプラン
テーマ：「接遇・電話対応ブラッシュアップ研修」
概　要：ビジネスマナーと受付・誘導マナーの要点を再確認し、窓口のロールプレイで接客やクレーム対応を研修した。

接遇研修

イ　受付対応と業務マニュアルの見直し

宿泊者の適切なシーツ利用を促進するため、利用前の各宿泊室へ人数分のシーツを配布するよう改善した。

職員が業務を適正に処理できるよう、宿直、B勤務、C勤務の各マニュアルを適宜修正した。

ウ　平等、公平な利用者サービスの提供等

施設予約の受付期間と受付時間を遵守し、平等、公平な受付業務を引き続き実施した。

接遇研修の学びを生かし、おもてなしの心、サービス精神を持って対応を心がけた。

エ 職員間の情報の共有化

利用者に対し、どの職員でも同様な対応ができるよう、毎月始めに運営会議（課長等会議）と課内会議、毎日の業務開始時の朝の会で、課を越えた職員の情報の共有化を図った。

また、交代勤務の中で各職員が毎日の状況を把握するために、事務室内に業務日誌を常設し、行事・修繕・点検・苦情と要望の記録がすぐに確認できるよう工夫した。

オ　アンケートや聞き取り調査等の実施とフィードバック

事業参加者には、各事業終了時全員にアンケートを実施した。施設利用者には、毎回、代表者へアンケートを実施した。また、館内に投稿箱とアンケート用紙を常備し、ホームページにはご意見箱を掲載し受け付けた。

アンケート等での苦情、要望等で改善可能なものは速やかに対応・改善した。また、フィードバックはW□等でご案内した。

※主な対応内容

要望：会議室でWi-Fiを使いたい。

対応：大会議室、中会議室、小会議室、多目的会議室にWi-Fi環境を整えた。

要望：宿泊時の食事を予約したい。

対応：ＨＰや予約受付時に配達可能な飲食店を紹介した。

カ　外部研修の参加や情報収集の実施

青少年健全育成事業の企画力・技能向上に関する外部研修等に出席し、他施設の状況や社会教育の最新情報の収集に努めた。

「社会教育実践研修」群馬県生涯学習センター　４名

「子どもの居場所活動　情報交換会」前橋市社会福祉協議会　１名

「ロケットストーブ制作」群馬県青少年施設連絡協議会（東毛青少年自然の家）　１名

「社会教育研究大会」群馬県教育委員会・群馬県社会教育委員連絡協議会　１名

「第３回子ども･若者支援フォーラム」子ども･若者支援フォーラム実行委員会　１名

「日本青年館財団設立１００周年記念式典・日本青年団協議会結成７０周年記念企画」（一社）日本青年館・日本青年団協議会　１名

「前橋市社会教育委員会議」前橋市教育委員会　２名

（公財）群馬県産業支援機構　W□の制作と運用、中期計画及び事業計画策定に係る相談　３名

（公益）群馬県スポーツ協会、ぐんまこどもの国　運営及び事業の情報収集　２名

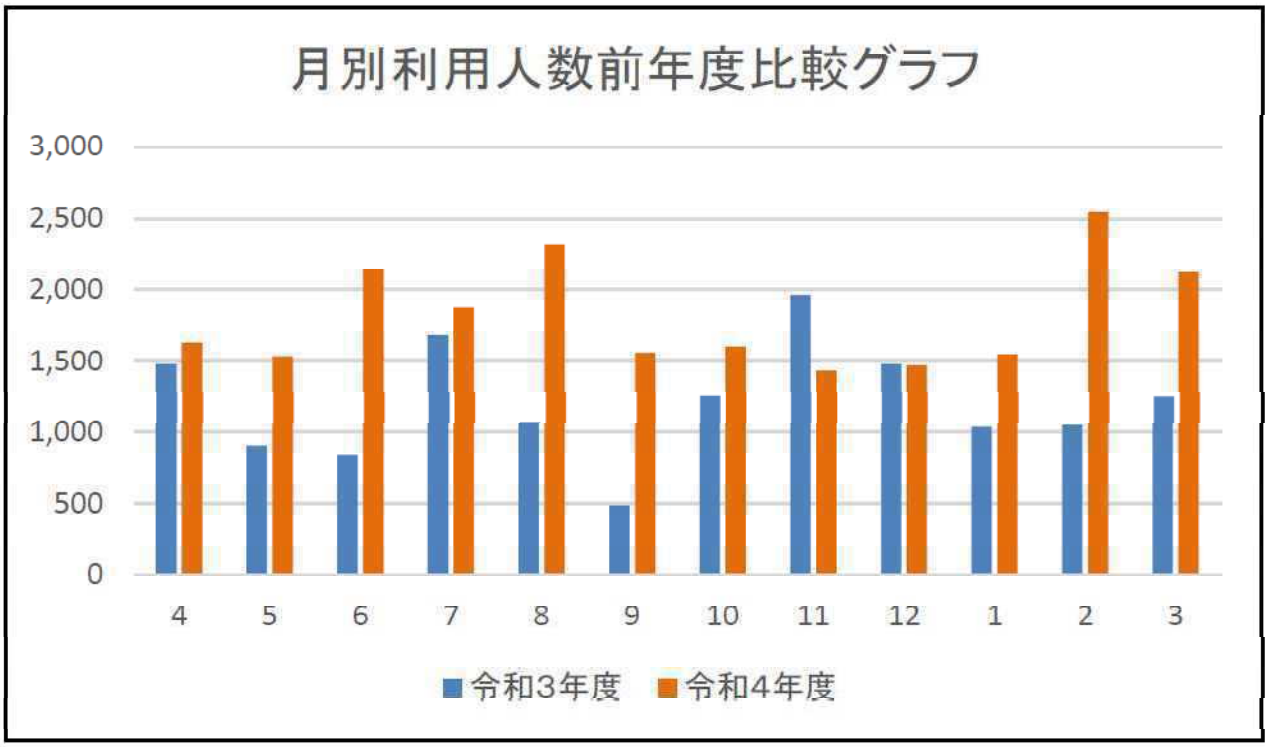
②　年間利用集計

ア　利用人数

令和４年度月別のべ人数利用人数実績（前年度比較）

月	令和3年度 （A）						令和4年度 （B）							比 較 （B）－（A）					
	日帰り		宿泊利用		合 計		日帰り		宿泊利用		合 計		利用人数	日帰り		宿泊利用		合 計	
	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	対前年比	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
4	77	1,424	1	52	78	1,476	70	1,628	0	0	70	1,628	110.3%	△ 7	204	△ 1	△ 52	△ 8	152
5	55	903	0	0	55	903	76	1,532	0	0	76	1,532	169.7%	21	629	0	0	21	629
6	51	834	0	0	51	834	78	1,827	4	316	82	2,143	257.0%	27	993	4	316	31	1,309
7	88	1,595	1	86	89	1,681	78	1,699	8	174	86	1,873	111.4%	△ 10	104	7	88	△ 3	192
8	43	1,068	0	0	43	1,068	72	1,746	10	564	82	2,310	216.3%	29	678	10	564	39	1,242
9	46	185	0	0	46	185	68	1,145	2	113	70	1,558	321.2%	22	960	2	113	24	1,073
10	68	1,225	1	26	69	1,251	60	1,497	3	104	63	1,601	128.0%	△ 8	272	2	78	△ 6	350
11	81	1,752	4	207	85	1,959	64	1,276	4	150	68	1,426	72.8%	△ 17	△ 476	0	△ 57	△ 17	△ 533
12	80	1,356	4	120	84	1,476	61	1,174	10	293	71	1,467	99.4%	△ 19	△ 182	6	173	△ 13	△ 9
1	57	997	1	39	58	1,036	77	1,544	0	0	77	1,544	149.0%	20	547	△ 1	△ 39	19	508
2	48	1,051	0	0	48	1,051	80	2,546	0	0	80	2,546	242.2%	32	1,495	0	0	32	1,495
3	69	1,247	0	0	69	1,247	73	1,541	8	579	81	2,120	170.0%	4	294	8	579	12	873
計	763	13,937	12	530	775	14,467	857	19,455	49	2,293	906	21,748	150.3%	94	5,518	37	1,763	131	7,281

令和４年度の施設利用者数は、延べ２１，７４８人（対前年度比１５０．３％）であった。



※参考　令和４年度新型コロナ関係
【第７波相当期間】７月下旬～１０月下旬
【第８波相当期間】１１月中旬～３月初旬
なお、令和３年度は５～６月（第４波）、８～９月（第５波）、１月下旬～３月（第６波）の影響で利用者が少なかった。

■前期
４～５月は新型コロナの影響から抜けきれず、宿泊予約は全てキャンセルになった。また、７月は県外学校の夏休み期間中の活動制限の影響から合宿のキャンセルが多く、また、８月も宿泊予定者の中で感染者が発生するなど５団体のキャンセルがあった。

■後期
１１～３月の間、県執行の本館空調工事（プレイホールを除く全館）のため、宿泊室及び会議室の予約を大幅に制限しなければならなかった。また、その影響で１２～３月は宿泊予約がほぼ受けられなかった（１～２月は０件）。

■その他
館内レストランの食事提供サービスがないためニーズに応えられず、予約に至らない問い合わせが多数あった。この対策として配達可能な飲食店業者の情報を収集して紹介した。

イ　利用料収入の実績

平成２６年度より利用料金制が導入された。令和４年度は４，１４２，７０５円の利用料収入があった。

令和４年度月別利用料（前年度比較）　　単位：円

月	利用料収入		
	令和３年度（A）	令和４年度（B）	（B）－（A）
4	345,560	292,680	△ 52,880
5	163,940	270,050	106,110
6	117,100	332,480	215,380
7	298,090	379,360	81,270
8	107,000	589,130	482,130
9	108,260	338,540	230,280
10	219,920	273,870	53,950
11	485,045	268,065	△ 216,980
12	303,360	280,310	△ 23,050
1	183,690	292,050	108,360
2	172,110	302,000	129,890
3	232,130	524,170	292,040
合計	2,736,205	4,142,705	1,406,500

ウ　広報、利用促進活動

・館報、会館リーフレット等を県内全域に配布した。
・職員がW□□を年間３０回更新して会館利用や事業の周知を行った。またW□□の全面リニューアルを行い、利用情報が見やすいページを構築した。
・F□□□□□□とブログを年間５０回以上更新し、主催事業等の情報発信を行った。
・□□i□□rを開設し、事業、利用の様子、季節感のある周辺の様子を発信した。
・既存の会館ロゴ・キャッチコピーを活用した壁面看板とのぼり旗を制作した。
・群馬県が推進するぐんまWi-Fiプロジェクトの光ステーション（１階ロビー周辺の無料公衆無線LA□環境）を継続して利用者に提供した。

③　環境整備及び修繕の取組

ア　環境整備

・職員が日に一日２回館内外を巡視する等、設備の確認や利用者の安全を第一に常に緊張感をもって管理を徹底した。
・雰囲気づくりに配慮し、七夕や節句に合わせて季節の飾りや花壇で育成した草花等を館内に飾った。また、栽培した苗の一部を利用者が自由に持ち帰れるようロビーに配置した。
・学習ワークスペースと受付前をリニューアルし、明るく快適な空間を確保した。
・指定管理仕様書に示された管理基準により関係法令を遵守し、施設設備の日常点検、保守管理等を実施した。
・年１回の備品総点検を行い、適正な管理に努めた。
・利用者との事前打ち合わせや宿泊前のオリエンテーションを徹底し、トラブルの未然防止を図った。
・植栽管理は、年２回の業者委託の他、群馬県青少年団体連絡協議会と連携した会館清掃及び職員による日常的な除草作業、インターロッキングの草取作業を実施し、環境維持に努めた。

イ　修繕

・経費節減のため、軽微な修繕はできるだけ職員で行った。また、ベテラン職員を中心に既存設備のメンテナンスや修繕工具取扱いの情報共有を図った。
・修繕を次のとおり実施した。
ガス警報器交換、駐車場松の丈下げ、１階照明器具取替（３台）、第１～４和室レースカーテン取り替、宿泊者用スリッパ交換、新館１階ロビーソファー布地張替、本館２階男子トイレ漏水修繕、音楽室ピアノ調律、火災報知器交換（５カ所）、会議室Wi-Fi機器整備

職員による植栽管理

ポット苗を利用者に配布

職員の除草作業

群馬県青少年団体連絡協議会 会館清掃

ワークスペース整備・ソファー布地張替

ロゴ・キャッチコピーを活用した看板設置

④　緊急時の体制・対応、防災、感染症対策

・新型コロナ感染症予防のため、県で示された予防マニュアル等に従い、館として、できる限りの予防策を実施し利用を受け入れた。(手指消毒用アルコールの複数設置、スピーディーに検温できる非接触式検知器を一番出入りの多い東通用口に設置、携帯の非接触型体温計を複数準備、マスクの着用、各室の定員を制限、３密回避、換気の実施、大きな声を出さないよう指導等)
・危機管理マニュアルを修正・更新した。
・消防署職員を講師に招きＡＥＤを使用しての救急救命講習、警察署生活安全課職員を講師に招いての不審者対応訓練（防犯訓練）をそれぞれ1回実施した。
・入居青少年団体事務局とともに自衛消防隊を組織し、消防訓練を年２回実施した。その内の１回は消防署職員の派遣を依頼し、防災に関する専門的な知識を学んだ。

救命講習

消防訓練

防犯訓練

⑤　青少年団体や地域住民等との連携

・寿楽園や近隣小中学校などの近隣施設との連携・交流を図った。
・荒牧町自治会と周辺地域に関する情報交換を行った。
・青少年健全育成事業で県内大学や前橋市教育委員会等と連携し、講義や事例発表に協力した。
・群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体の総会や会議に参加した。

・ライオンズクラブ国際協会333ーD地区と連携して共催事業を実施した。
・前橋市の管理事務所に協力を得て、会館駐車場満車時にばら園駐車場を借りた。
・青少年会館友の会や群馬県青少年団体連絡協議会の協力で１階ロビーにクリスマス飾りや子どものクラフト教材（わくわく袋）を配置した。また連動して職員が遊びのコーナーを併設した。

会館友の会提供　クリスマスリース

群馬県青少年団体連絡協議会提供 わくわく袋

ロビーに子どもの遊びコーナーを設置

⑥　その他

ア　情報公開及び個人情報保護への取り組み

情報公開規程に基づいた情報公開及び個人情報保護規程、特定個人情報保護規程に基づいた個人情報保護を行った。

イ　法令遵守

諸規程整備等を実施し、法令に基づいた運営を実施した。

ウ　環境保全

・節電、省エネの取組を通年で実施し、利用者にも節電の協力を呼びかけた。
・夏期に建物内部の温度上昇を抑えるため、新館1階トップライト等に遮光ネットを設置した。
・冬季に新館２階の防火戸を閉め、暖房効率を上げる工夫をした。
・ペットボトルキャップの回収箱を設置した。

(2)　青少年指導者・ボランティア養成事業

「子どもふれあいワークショップ」

１ 事業目標

子どものいる場所に関わっている（または関心がある）青年を対象に、子どもへのよりよい関わり方を学び、地域活動に積極的に関わる人材を育成する。

２ 事業概要

（１）期日：令和５年２月２５日（土）
（２）参加対象及び募集人数：県内在住･在勤の地域青少年活動指導者など19歳以上の人　15名
（３）参加状況
ア 参加者合計　15名、　申込人数　17名（キャンセル　2名）

内 訳	未就学児	小学生1~3年	小学生4~6年	中学生	高校生		専門短大大学生	社会人保護者	総計
参加者数							3	12	15

イ スタッフ　・講師　2名

３ 事業実施のポイント

①「笑顔の輪を広げる」というテーマのもと、どんぐりを用いた遊びやクラフトを通してコミュニケーションを深める手立て、子どもと触れあう際のポイントを「聞く」「伝える」に絞ったワークショップを実施した。
②昨年度のアンケートから、「子ども同士がコミュニケーションを深める手立てを学びたい」という意見を反映させ、プログラムを構築した。
③新型コロナウイルス感染対策により、共有物に触れる際は消毒を適宜行うなど、安全面に配慮した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
2月 25日 （土）		あそびのワークショップ ・開講式 ・スマイルどんどん↑↑どんぐりあそび♪ ・笑顔の輪を広げる♪ 聞く力＆伝える力 ・ふりかえり・閉講式	

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

・学んだ内容を生かして、子どもとの関わり方がより良くなればと思った。グループの雰囲気も和やかで、他の方の意見を直接聞くことにより、様々な考え方・新しい気づきをたくさん得ることができた。
・小学生と触れあう機会が多いが、すぐに実行できる内容で申し込みの時から楽しみだった。明るく楽しい講師の方々で、とても時間が短く感じた。明日も子ども達とふれあうが、少し優しくおだやかに接することができると思う。
・どんぐりというツールだけで、様々な広がりがあることに驚いた。親業の話でも、たくさんの気づきがあった。どちらも主役は子どもであること、子ども自身が気づき、考えていくために大人がどう関わっていくのかという視点が大切だと思った。
・どんぐりでこんなに遊べるのだと知り、創造力を豊かに考えていくことの大切さに気付くことができた。１つのことを突き詰めて新たな価値を創造する講師の姿勢に感化された。
・能動的な聞き方・主語を「私」にして語ることは、人との関わり方の中でとても重要なことだと知った。今後も自分や周りの人も幸せになれるよう、技法を活用していきたい。

（２）成果

・両講師と担当が打合せを念入りに行い、新型コロナウイルス感染対策を踏まえたプログラムにしたため、参加者は安心して受講することができた。
・社会教育や体験活動の意義、その手段として身近な素材である「どんぐり」を活用できることを伝えることができ、参加者にとって有意義なプログラムを提供することができた。
・どんぐりを活用して様々な遊び方があることを伝えることができた。4つのグループで考えたどんぐり遊びを発表しあい、アイディアの幅を広げることができた。
・２人組で行うワークショップと講義をバランス良く構成したプログラムであり、参加者は集中して熱心に受講していた。
・ワークを行う際のシチュエーションが適切であり、参加者は実体験を基に学びを深めることができた。

（３）課題

・近年、少子化・価値観の多様化などにより、社会教育活動に参画しようとする青年が減少傾向である。さらには、新型コロナウイルスの影響により、地域活動やボランティア活動が中止・縮小しており、活動の場そのものが減少している。当事業は、地域活動に参画するためのスキル向上を図ることがねらいであるが、現状では参画以前に参加する機会を提供する方が多いように感じる。
・現状とニーズに沿うプログラムを構築するため、毎回調査研究をする必要がある。特に青年層の率直な意見に耳を傾けたい。

６ 事業の様子

どんぐりあそび

聞く力・伝える力

担当　　山田 貴史

「中学生･高校生交流ボランティア体験」

１ 事業目標

県内の中学生･高校生に対し、ボランティア活動に対する知識を伝授するとともに、活動の実践を通して交流を深める機会を提供する。また、ボランティアに対する意識啓発を行うことにより、継続した活動を推進する。

２ 事業概要

（１） 期日：令和５年１月２８日（土)・２９日（日）
※新型コロナウイルスの影響により、日程およびプログラムを変更した。
※県教育委員会へ指定管理事業計画の変更協議を行った。

（２）参加対象及び募集人数：県内在住･在学の中学生･高校生　15名

（３）参加状況

ア 参加者数（実人数）　8名、　申込人数　12名（キャンセル4名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生4 ～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数				2	6			8

イ 講師　2名

３ 事業実施のポイント

①群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体（以下、群青連協）の主催事業（当会館は共催）「目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!?」にて、ボランティア活動の実践を行った。内容は、事業の参加者（小学生）に対して、紙飛行機づくり・紙飛行機とばし・スライムづくりの補助を行った。

②初めてボランティア活動に取り組む中高生が安心して実践できるよう、事前研修の充実化を図った。

③新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者を少人数に絞った。当初の定員は15名を予定していたが、ボランティア活動の内容を考慮し、参加者が10名前後になるように周知の調整を行った。また、青少年会館のマニュアルに沿い、参加者同士の距離の取り方などを配慮して実施した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
1月 28日 （土）		・開講式・諸連絡 ・コミュニケーションゲーム ・講義「ボランティアの心得 ・子ども達との関わり方」 ・体験活動に向けて	
1月 29日 （日）	・諸連絡 ・ボランティア活動実践 スライムづくり 紙飛行機づくり 紙飛行機飛ばし	・ボランティア活動実践 活動内容は午前と同様 ・ふりかえり ・閉講式	

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

・普段の学校生活では、体験できないような貴重な体験をすることができてよかった。またこれを機会に、今後様々な活動に参加したいと思った。
・初めてのボランティア活動であり、緊張や不安でいっぱいだったが、施設の方々のご指導の下、とても楽しく面白く参加することができた。これからのボランティア活動に生かせることをたくさん学んだ。
・小さい子と関わることがあまりなかったため、とてもよい経験になった。実際、私は子どもと関わる仕事に興味があり、将来の職業へのビジョンが明確になった。
・高校生になってから、ボランティア活動をやりたいと思っていたが、コロナの影響でなかなか募集がない中、やっと見つけることができた。

（２）成果

① 最初は緊張していた受講者が、講師のコミュニケーションゲームでみるみる笑顔になり、リラックスして前向きにボランティアについての講義に臨むことができた。年齢が上がれば上がるほど、アイスブレイクは緊張をほぐす大切な技法だと感じた。
② 前日準備に参加することで、群青連協スタッフとの交流を深めることができた。また、子ども達がどのように参加するか、活動するかのイメージ化を図ることができた。２日間の事業だったため、参加者同士の交流がより一層深まっていった。
③ 当日は、受講者全員が膝をついたりしながら子ども目線での支援に努めるなど、子どもに寄り添う姿勢が感じられた。中高校生が笑顔で接することで、緊張していた子ども達も笑顔で活動することができた。

（３）課題

・近年、特に高校生のボランティア受講希望者が増加している。なるべく多くの方の希望に沿うことが望ましいが、適度な定員数に設定する方がきめ細やかな指導ができる。また、参加申込者の意志に沿い、なるべく先着で受付をしたいが、状況によっては抽選も検討する必要がある。

６ 事業の様子

コミュニケーションゲーム

紙飛行機飛ばしの準備

スライムづくり補助

担当　　山田　貴史

「体験活動・ボランティア活動支援センター」

１ 事業目標

ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする地域の団体や機関との連絡調整を行い、協働の機会を提供する。また、青少年および指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、提供する。

２ 事業概要

（１）期日：通年

（２）相談状況　2/28現在

8件

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生4 ~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数					1		7	8

３ 事業実施のポイント

①ボランティア活動・体験活動を希望する個人団体に情報を提供し、ボランティア活動の促進を図った。

②ボランティアおよび指導者の紹介を希望する団体校等に対し、必要な人材をコーディネートした。

③新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、広報等を柔軟に行った。

４ 活動・相談内容

活動･相談日	内容
5月 6日	【相談1】　子どもを対象とする事業を行う任意団体創設の相談に対し助言
5月22日	【相談2】　レクリエーションプログラムの指導者紹介を希望
5月24日	【問合せ1】小学生対象の地域活動におけるボランティア紹介
5月28日	【相談3】　結成した学生ボランティア団体の活動受け入れ場所の紹介
6月 8日	【問合せ2】子ども向けの事業における指導者紹介
8月10日	【活動】　上記相談3の実施、以降計5回活動
8月13日	【活動】　上記相談2の実施
8月22日	【相談4】　富岡地区で青年活動をしている団体の情報提供を希望
9月21日	【相談5】　ボランティア活動の紹介希望
10月 5日	【相談6】　ボランティア活動者に対する事業周知の協力依頼

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

（学生ボランティア団体の代表者）

・結成して間もない団体にボランティア活動先を紹介していただき、ありがたかった。学生にとって有意義な体験をすることができた。

（スポーツ団体の代表者）

・毎年、合宿でレクリエーションを行う際の指導者を紹介していただき、助かっている。子ども同士のチームワークを高めるプログラムの提供をしていただいている。

（２）成果

①今年度、初めて任意団体（子ども達に体験の場を提供する団体）の創設について相談を受けた。当会館のネットワークを生かし、任意団体を創設した経験がある方に助言を求め、対応することができた。この団体が活動することにより、子ども達が体験活動する機会の充実化を図ることができる。

②創設したばかりのボランティア団体に活動の場を提供することができた。活動を通して結束を図り、団体の活動が活性化することが期待できる。

（３）課題

・ボランティアや指導者紹介の問い合わせは、ある程度の件数があるものの、実際に紹介まで行ったケースは少ない。新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や縮小などを余儀なくされたようである。今後、感染対策は緩和される見通しではあるが、状況を把握しながら進めていく必要がある。

６ 事業の様子

レクリエーションの指導

学生ボランティア団体が活動

担当　　山田　貴史

(3)　青少年の交流・体験活動事業

「ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」

１ 事業目標

心のバリアフリーと温かな社会の実現を目指して、ともにふれあい、ともに活動する楽しさを体験すると共に、ボランティア活動を促進するためのフェスティバルを開催する。
※新型コロナウイルス感染対策のため、パネル展示のみの開催形式に変更
※開催形式の変更は、実行委員会で決議され、県教育委員会へ指定管理事業計画の変更協議を行った。

２ 事業概要

（１）期日：通年
実行委員会：第1回6月24日（金）、第2回8月17日（水）、第3回9月28日（水）
第4回11月2日（水）、第5回1月18日（水）

（２）参加状況
参加団体：
実行委員会：参加者合計34名

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生4 ~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数						3	31	34

３ 事業実施のポイント

新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、開催内容をパネル展示のみとした。
1月18日～1ヶ月間、当会館内にてパネル展示コーナーを設け、実行委員会所属団体の活動紹介・当事業のプログラムを紹介（過年度の様子）した。
【経緯】
実行委員会で協議を重ね、プログラムを縮小（体験ブース・パネル展示）、参加者実行委員会所属団体のみに限定して開催する方向で進めていたが、新型コロナウイルス感染状況等からパネル展示のみの開催になった。

４ 事業評価

（１）成果

・新型コロナウイルス感染拡大により、一昨年度・昨年度と２年に渡って、実行委員会で代替案などの検討をしてきたが、実施に至らなかった。今年度も小規模での開催を模索したものの、結果的にパネル展示のみとなったが、当事業の再開に向けて第一歩を踏み出すことができた。

（２）課題

・コロナ禍における活動制限については、実行委員会所属団体内でも対応が多様であり、開催形式やプログラムを一本化することが難しい。
・健常者とは異なり、マスクの着用が難しい障がい者は多い。今後、新型コロナウイルス感染対策が緩和される見通しではあるが、対策方法については慎重な判断が求められる。
・上記のことから、次年度の開催も新型コロナ流行前のようなプログラムは難しく、状況に応じて新たなプログラムを構築することが求められる。

５ 事業の様子

パネル展示会場

パネル設置

実行委員会（会議）

担当　　山田　貴史

「親子ふれあい体験教室（おやこ木工教室）」

１ 事業目標

共同・協力作業を行うことにより、親子のふれあいや参加者同士の交流を深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。

２ 事業概要

（１）期日：令和4年7月23日（土）

（２）参加対象及び募集人数：県内の小学3～6年生の親子　10組20名

（３）参加状況

ア 参加者合計　24名、　申込人数　75名（キャンセル　2名）　※家族数　11世帯

内 訳	未就学児	小学生1～3年	小学生4～6年	中学生	高校生		専門 短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		4	9					11	24

イ スタッフ　・講師　4名

３ 事業実施のポイント

①昨年度と同様に材料の木材を１家族１本配布して、思い思いの作品を制作した。昨年度、木材１本の分量を明確にイメージできていない参加者がいたため、作業に取り組む前に講師が的確なアドバイスを行った。

②新型コロナウィルス感染拡大防止のため、木工作業において共有する道具は、こまめに消毒作業を行った。また、食事会場ではテーブルの間隔を十分に確保した。

③「親子のキズナをカタチに」をキャッチフレーズに沿い、作品と共に親子で記念撮影をするコーナーを設けた。

④レクリエーションプログラムでが、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、心の距離を縮められるプログラムを提供した。各講師と打ち合わせを重ね、安全面と交流の双方を考慮した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
7月23日（土）	開講式 コミュニケーションゲーム（レクリエーション） 木工道具の使い方 共通作品の制作 自由（オリジナル）作品の制作	自由（オリジナル）作品の制作…午前の続き ふりかえり・閉講式	

5 事業評価

（1）参加者の満足度

・作業に入る前にレクリエーション、完成後の撮影コーナーがあり、ワークショップとして充実していた。丁寧に教えていただき、ありがたい。
・普段、子どもと何かを一緒に作ることが無いので、良い経験だった。子どもが思ったよりも積極的に作っていたので、嬉しかった。
・日頃、木材に触れることが少ないので、このような機会をいただき、大変有意義だった。
・事前にアイディアを考えたものの、実際に始めると思い通りにならず難しかったが、親子で考えながら作業するのは楽しかった。

（2）成果

・親子で協力しながら作業をしており、プログラムを通じて、親子のふれあいを深めることができた。
・講師の指導が適切で、全参加者が時間内に作品を仕上げることができた。
・レクリエーションは、事業の趣旨に沿うプログラム構成だった。講師（青少年団体）は、コロナ禍で実践する機会が少ない中、レクリエーションの研究を行うなど日頃の努力と成果が感じられた。

（3）課題

・以前から木材の価格が値上げ傾向の中、近年は急激に物価が高騰しているため、参加費の見直しが必要である。多くの方が参加しやすくなるように参加費を調整したい。
・次年度はウィルス感染対策が緩和されるため、体験の機会を増やすという観点から参加人数を見直したい。しかし、少人数の方がきめ細やかな指導を行えるメリットがあるため、双方のバランスを考慮して募集人数を調整する必要がある。

6 事業の様子

道具の使い方

ノコギリを使う親子

糸ノコギリを使う親子

作品鑑賞（ふりかえり）

記念撮影コーナー

レクリエーション

担当　　山田 貴史

「高校生写真講座 デジカメワークショップ」

１ 事業目標

・デジタル写真に対する知識や技能を高める機会を高校生に提供し、班活動による写真撮影および組み写真作品の制作・発表を通して、参加者同士の交流を図る。

２ 事業概要

（１）期日：令和４年９月１０日(土)

（２）参加対象及び募集人数：県内在住・在学の高校生　３０名

（３）参加状況

ア 参加者合計36名、　申込人数45名（キャンセル11名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年		小学生 4~6年	中学生	高校生	専門 短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数						36			36

イ スタッフ　・ボランティア　0名

・講師4名　　・その他　14名（講師補助）

３ 事業実施のポイント

①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和元年度まで行っていた1泊2日ではなく、日帰り日程とした。また、撮影場所も近隣の敷島公園・バラ園で実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、事前に各学校に周知し、しっかりと対応できるようにした。

②高校生の写真作品について研究している外部講師を招き、よりよい撮影・作品制作を行うため助言した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
9月 10日 （土）	◆開講式 ◆講義 ・カメラの使い方 ・組写真の構成 ◆撮影活動（敷島公園）	◆組写真制作 写真印刷・プリンタ使用法 ◆作品発表 プレゼンテーション形式 ◆講評 ◆閉講式	

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

【交流・協力】
・2 校連合班で初めて会った人と協力した撮影活動は、はじめは不安だったが交流を深められてよかった。
・組写真を作るのは初めてで不安もあったが、仲間と協力して 1 つの作品にすることができた。普段の部活動は個人活動が多いため、仲間と協力する活動はよい経験になった。

【組写真制作・撮影活動】
・組写真のテーマを決めることにより、ただ統一感を出すだけでなく、作品のイメージや物語をつくることもできることに感動した。
・自分たちでは気付くことができない視点からアドバイスを頂き、撮影技術の向上につながると感じた。
・被写真をお願いする際、もっと多くの方に声をかければよかったと思った。人の写真を撮る機会が無かったので、貴重な体験だった。

（２）成果

・今回は、大学の教授（写真学科）が講師を務めた。講義内容は、組写真を通して何を表現したいかについて、視点や技法についての概論から始まり、写真甲子園出品作品を紹介しながら具体的に分かりやすい説明だった。受講を生かした写真撮影・組写真作りだったため、時間を有効に使い表現したい視点を明確にした作品を仕上げることができた。
・発表の時間は、班ごとに講師 2 名が作品の優れている点を中心に、次の活動に繋がるような　講評をしてくれた。
・例年と比べ、制作者のねらいがしっかりと表現できている作品が多く、ものの見方・捉え方・表現力等、高校生にとって学びの多い事業になった。

（３）課題

・新型コロナウイルスの感染防止の観点から、撮影・制作活動のグループを学校単位で編制したが、より交流を深める内容とするには、他校との混合班で編制することを検討したい。（令和元年度までは、混合班で編制して実施していた）
・近年は急激に物価が高騰しているため、参加費の見直しが必要であるが、なるべく受講者の負担を軽減できるよう参加費を調整したい。

６ 事業の様子

機材を活用して撮影

組写真作成

作品発表

担当　　山田　貴史

(4)　青少年団体の育成及び指導事業

「青少年団体活動支援事業」
（夏休み宿題お助け隊）

１ 事業目標

群青連協加盟団体が連携して、子ども達の課題解決能力や社会性を育む。また、各青少年団体の活動経験を生かして高校生ボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。

２ 事業概要

（１）期日：令和4年8月7日（日）
（２）参加対象及び募集人数：小学1年～6年生60名、高校生ボランティア10名
（３）参加状況
ア 参加者合計　39名、　申込人数　192名（キャンセル21名）

内 訳	未就学児	小学生1～3年	小学生4～6年	中学生	高校生	専門短大大学生	社会人保護者	総計
参加者数		22	17					39

イ スタッフ　・ボランティア　60名（群馬県青少年団体連絡協議会22名、高校生38名）

３ 事業実施のポイント

①群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体（以下、群青連協）が連携して、小学生の夏休みの宿題の支援を行った。また、体験活動の機会として、紙コップフリスビー制作・フリスビー飛ばしを行い、ボランティア・児童を含め参加者の交流を図った。宿題支援と体験活動を組み合わせることで、子どもたちにより楽しんでもらえるよう工夫した。
②ボランティア養成として、高校生ボランティアを募集し、宿題の支援と体験活動の補助を行った。（昨年度は大学生ボランティアを募集したが、この時期はテスト期間と重なるため対象を変更した。）また、事前研修を行い、安心して楽しくボランティア活動ができるよう配慮した。
③新型コロナウイルス感染防止対策のため、宿題の内容を3コース（ドリル・ワーク、読書感想文、絵画ポスター）に分けて、一日参加の日程とした。また、青少年会館のマニュアルに沿って実施する他、人数の制限、各部屋での動線の表示、参加者への支援の距離の取り方などの工夫をして実施した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
８月 ７日 （日）	・スタッフ集合 ・高校生ボランティア集合 ・高校生ボランティア事前研修 ・開会式 ・宿題開始	・宿題再開 ・体験活動：紙コップフリスビー制作、競争 ・閉会式 ・高校生ボランティアふりかえり	

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

群青連協
・「多くの群青連協スタッフが集まり、余裕を持って対応できた。」「高校生がたくさん来てく

れて良かった。」などの意見があった。群青連協から５団体が参加し、事業を通して各団体間での交流が図れていたと感じる。

参加児童

・楽しく宿題や体験活動に取り組めた等の意見が多かった。また、「ボランティアの人から教えてもらってうれしかった。」「高校生と仲良くなれてよかった。」などの意見があり、参加児童にとってお兄さんお姉さんとの交流は楽しかったことがうかがえる。

高校生ボランティア

・事前研修については、「活動のやる気が高まった。」「緊張がほぐれた。」等の回答があった。宿題の支援については、「最初はあまり会話が続かない子でも、根気強く話しかけているとだんだん心を開いてくれて自分から話してくれるようになったので、それが一番嬉しかった。」等の回答があった。体験活動については、「一緒に紙コップフリスビーを作った子どもに友だち！と言ってもらえたのがうれしかった。」等の回答があった。

（２）成果

・群青連協から５つの団体が参加した。事業内容について、感染防止対策を十分に行った上で、子どもたちが楽しめる内容で実施できた。参加児童、高校生ボランティアにとっても体験活動や交流ができる事業を行うことができた。また、群青連協が支援している姿を見ながら、高校生が支援している姿が随所で見られ、高校生にとってのお手本となっていた。
・募集定員は 10 名だったが、初日で 39 名の応募があり、群青連協と相談して応募者全員を受け入れた。高校生からは、「友人に誘われ、初めてボランティア活動に参加したが、予想以上に達成感もあるし、何よりすごく楽しめて、夏休みの思い出の一つになった。またここでボランティアしたいなと思った。」などの意見があり、良い体験の機会になったと感じる。
・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながら、宿題支援、体験活動、参加者同士の交流ができる事業を実施できた。

（３）課題

・参加児童の応募数が 192 名と人気のある事業だけに、２日間開催ができるか検討したい。
・読書感想文、絵画・ポスターへの応募が集中したため、宿題コースの見直しを検討したい。

６ 事業の様子

ボランティア事前研修

開会式

ドリル・ワーク支援

読書感想文支援

絵画・ポスター支援

フリスビー競争

担当　　北爪　勇貴

「青少年団体活動支援事業」
（おやこで茶道教室）

１ 事業目標

茶道を通じた親子の体験教室を実施するため、茶道会青年部と青少年会館が協働して、企画・立案をする。また、その成果を事業として実践する。

２ 事業概要

（１）期日：令和4年12月4日（日）
（２）参加対象及び募集人数：親子（小学生１名と保護者１名） 計20組40名
午前の部10組20名　午後の部10組20名
（３）参加状況
ア 参加者合計　32名、　申込人数　128名（キャンセル8名）　※家族数　16世帯

内 訳	未就学児	小学生1～3年	小学生4～6年	中学生	高校生	専門短大大学生	社会人保護者	総計
参加者数		11	5				16	32

イ スタッフ　・ボランティア　11名（群馬県茶道会青年部11名）

３ 事業実施のポイント

①群馬県茶道会青年部の計らいで午前と午後の2部制として初めて開催し、可能な限り多くの親子に参加してもらえるよう工夫した。令和元年度以来3年ぶりに開催できた。
②新型コロナウイルス感染防止対策として人数制限を行い、和室1部屋の人数を5組10名とした。
③クリスマスツリーの練り菓子や雪だるまの干菓子など、季節感のあるお菓子とともにお茶を楽しめるよう工夫した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
12月 4日 （日）	・開会式 ・茶道体験 ・アンケート記入 ・閉会式	・開会式 ・茶道体験 ・アンケート記入 ・閉会式	

５ 事業評価

（1）参加者の満足度

群馬県茶道会青年部

・「親子で活動といった点で、笑顔で活動出来たところを見ていて、私達もホッと和んだ。」「子が親へ点てたお茶を飲んだ時の笑顔で、一気に場がなごみました。こちらもうれしく
なりました。」などの意見があった。指導する側も、和やかな雰囲気の中で楽しく活動できたようである。

参加者（子ども）

・「まっ茶は、すごく苦いものだと思っていたけど、飲み始めるとすいすいごくごく飲めて、すごく楽しかったです。」「お母さんとお茶をつくったのはとてもたのしかったし、さいしょはお茶がにがてだったけど、お母さんがつくってくれたお茶はおいしかったです。」などの意見があり、茶道体験を通じて親子で楽しい時間を過ごせたようである。

参加者（保護者）

・「親子で一緒に参加できて良かったです。息子のたてたお茶が飲めて嬉しかったです。また参加したいです。」「親子で一緒に参加でき、とても良い思い出ができました。娘がどうしても参加したくて、申込開始前から、ずっと申し込んでと言われていたので、参加できて良かったです。」などの意見あり、日本の伝統文化に親しみながら、親子で楽しい時間を過ごせたようである。

（2）成果

・コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、３年ぶりに開催することができた。
・新型コロナ対策で、和室の人数制限を行って開催した。1部屋の組数を少なくしたため、群馬県茶道会青年部の方のきめ細かな支援があり、親も子も落ち着いて茶道に親しむことができた。
・参加者から「季節のかわいらしいお菓子や器で素敵でした。」などの意見があり、季節を感じながら、和気あいあいと茶会を開催できた。

（3）課題

・64組128名の応募があり、茶道の関心が高いことが分かった。今後、保護者１人子ども２人という人数設定や、開催日を増やすことが可能かどうか検討していきたい。

６ 事業の様子

開会式

作法の説明

茶道具の説明

お茶の飲み方を体験

茶道体験（茶会）

茶道体験（茶会）

担当　　北爪　勇貴

「青少年団体活動支援事業」
（目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!?～）

１ 事業目標

各種青少年団体活動の活性化や指導者の資質向上を支援するため、青少年団体と連携して各種事業を行う。

２ 事業概要

（１）期日：令和５年１月２９日（日）
（２）参加対象及び募集人数：小学1年～3年・小学4～6年　各30名
（３）参加状況
ア 参加者合計　34名、　申込人数　38名（キャンセル4名）

内 訳	未就学児	小学生1～3年	小学生4～6年	中学生	高校生	専門短大大学生	社会人保護者	総計
参加者数		29	5					34

イ スタッフ・ボランティア　11名　（群馬県青少年団体連絡協議会）
※中学生･高校生交流ボランティア体験の受講者がボランティア実践（詳細は別頁）

３ 事業実施のポイント

①群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体（以下、群青連協）と連携して、小学生向けの体験活動プログラムを行った。内容：紙飛行機づくり・紙飛行機とばし・スライムづくり
②開催の時間帯を下学年（1～3年生）・上学年（4～6年）に分け、それぞれ発達段階に応じたプログラムを行った。
③新型コロナウイルス感染拡大防止のため、材料の配布を予め小分けにするなど、参加者同士が接触しないよう配慮した。また、青少年会館のマニュアルに沿い、人数の制限・指導者および参加者同士の距離の取り方などを配慮して実施した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
1月29日（日）	・スタッフ打ち合わせ ・会場・備品準備 ・低学年の部 開講式 スライムづくり 紙飛行機づくり 紙飛行機飛ばし （飛ばし大会） 閉会式	・高学年の部 開講式 スライムづくり 紙飛行機づくり 紙飛行機飛ばし （飛ばし大会） 閉会式	

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

【スタッフ】
・久しぶりに大人数での活動だったが、異年齢交流は子ども達にとって良い経験になるとを改めて確認できた。コロナに負けず、このような機会をつくっていけると良い。
・子ども達が笑顔で楽しんで活動できていた。高学年は、試行錯誤をしながら積極的に取り組めていた点が素晴らしかった。

【参加者（小学生)】
・知らない人と仲良くなれて楽しかった。みんなと交流できて楽しかった。
・お兄さんがしゃべりかけてくれて、あまり緊張しなかった。
・また来たい。またやりたい。

（２）成果

・上学年のプログラムは、スライムづくりの際にホウ砂の量を各自決めて作ったり、紙飛行機では共通のものから各自工夫したものを作って飛ばしたりするなど、発達段階に応じて実施することができた。
・紙飛行機飛ばしでは、何度か試し飛ばしを行ってから、記録会を行った。そして、閉会式前に上位 3 名の表彰を行い、全員に記録賞を渡すなど、参加者への細やかな配慮が感じられた。
・ステージ上から紙飛行機を飛ばす際、ステージに上がる階段・下りる階段を分けて一方通行にして飛ばす人は 1 人ずつにする等、安全面での十分な配慮があった。
・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながらも、体験活動や交流ができる機会を提供することができた。

（３）課題

・今回の群青連協加盟団体スタッフに新規の方が少なかった。少子化・新型コロナウイルスの影響での活動ができない団体も多い。今後、活動が活性化するよう支援が必要である。
・高学年の応募者が少なかったため、次年度も同事業を継続する際は、高学年の児童が興味を持ちそうなプログラム・PR 方法について工夫が必要である。

６ 事業の様子

紙飛行機づくり

紙飛行機飛ばし

スライムづくり

担当　　山田　貴史

「青少年団体活動支援事業」
（ボランティアのつどい）

１ 事業目標

ＶＹＳ活動やボランティアに興味を持つ一般青少年を対象とした「ボランティアのつどい」を開催し、本会の活動を周知する。また、実践的活動として地域の小学生に対して「ＶＹＳと遊ぼう！！～今だからこそ、おもいっきりの笑顔を～」を行うことで、ＶＹＳ活動をより具体的に体験する機会を設け、活動の楽しさや充実感などを体感し、今後継続してＶＹＳ活動やボランティアを行う意欲を高めることを目指す。同時に、地域の小学生の体験的活動の場となるように、青少年をはじめ、他校、異学年の児童との関わりが持てるブースを展開する。

会員においては、ＶＹＳ活動を紹介することを通して普段の活動を見つめ直し、活動に対する理解を深め、活動の拡充を意識する機会とする。

２ 事業概要

（１）期日：令和5年3月11日（土）

（２）参加対象及び募集人数：高校生以上のボランティア20名、小学1年～3年生30名

（３）参加状況

ア 参加者合計　33名、　申込人数　41名（キャンセル8名）

内 訳	未就学児	小学生1～3年	小学生4～6年	中学生	高校生	専門短大大学生	社会人保護者	総計
参加者数		33						33

イ スタッフ　・ボランティア　40名

（群馬ＶＹＳ連絡協議会10名、高校生28名、大学生1、社会人1名）

３ 事業実施のポイント

①各会場との準備をボランティアとVYSで一緒に行うことができた。
②参加児童を3班に分けて、3つの会場4つの体験ブースを回ることができるよう工夫した。
③本館空調工事期間中で部屋の利用制限があったが、会場として１階ロビーを利用するなど工夫して、実施した。

４ 日程

日時	午　前	午　後	夜
3月11日（土）	・開会式 ・アイスブレイク（仲間作りのゲーム） ・午後の活動に向けた体験ブースと会場の準備	・「ＶＹＳと遊ぼう！！～今だからこそ、おもいっきりの笑顔を～」開催 ・ふりかえり ・ＶＹＳ各地区紹介 ・閉会式 ・アンケート記入	

５ 事業評価

（１）参加者の満足度

参加者（ボランティア）

・夏休み宿題お助け隊に参加した生徒が4名、中高ボラに参加した生徒が5名、計9名が今年度二度目のボランティア参加であった。

・誘導･支援係は、各会場を巡りながら動線や各ブースでの支援について確認したり、各ブースの準備ではVYSの担当から説明を受け、午後参加する子ども達のことを考えながら準備したり、事業準備の大切さを学ぶことができた。

・子どもによって対応が変わるし、こっちの思い通りに動いてくれることがないので難しいなと思った。準備して、一緒に遊んで、子ども達が喜んでくれてうれしかった。

・初めてで、けっこう緊張していたけど、周りの高校生が優しく話しかけてくれて楽しく活動することができた。子ども達は一人一人性格が全然違っていて、面白かったが難しかった。経験がとても大切だと思った。

参加者（小学生）

・開会式では緊張気味で、最初にチャンバラ合戦をした班は、動きがぎこちなかったが、最後にチャンバラ合戦を行った班は、大きな声を出しながら対戦し、スライディングキャッチで旗を取り合うなど楽しく交流活動をしていた。

・作った缶バッチをすぐに胸に付けて、嬉しそうにしている子が多かった。

・どの班の子も話をよく聞いて、交流活動ができていた。

（２）成果

・コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、４年ぶりに開催することができた。

・近隣の高校にチラシを持参したり､以前の事業に参加した生徒にメールで紹介したりした結果、28名の高校生が参加した。

・小学生の応募が少なかったが、近隣の小学校にチラシを持参して周知した結果、申込が41名になった。

（３）課題

・VYSの活動が、地域によってばらつきがあるとともに、構成員の増加が鈍っているのが現状である。各地域はもちろんのこと、県全体で充実した活動ができるよう連携していきたい。

６ 事業の様子

ＶＹＳと遊ぼう　開会式

缶バッジ作り

チャンバラ合戦

ストラックアウト

パッチンガエル

ボランティア集合写真

担当　　北爪　勇貴

(5)　情報収集・情報提供システム事業

「ぐんま青少年ねっと」

1 事業目標

インターネット等を活用して青少年健全育成に関する情報収集を行い、学校、青少年団体指導者及びボランティアに関心のある青少年に向け、情報を発信する。
来館者にインターネット環境を提供し、青少年健全育成に関する情報収集の推進を図る。

2 事業概要

（1）期日：通年
（2）参加対象及び募集人数：青少年、青少年指導者及び地域住民
（3）利用状況

学習情報コーナー利用者　82名　　3月31日

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小 学 生 4～6年	中学生	高校生		専 門 短 大 大 学 生	社会人 保護者	総計
参加者数			1	8	42			33	84

3 事業実施のポイント

①群馬県青少年会館ホームページの日常管理
施設利用案内や主催事業等の最新情報の掲載（更新）作業を行った。特に新型コロナウィルスに関連する情報（施設の利用法、事業実施の日程変更など）は、スピーディーに対応した。
②群馬県青少年会館ブログ・Facebook・ツイッターの記事投稿
当会館の主催事業・施設利用・館内の様子などについて、昨年度よりも情報発信数を増やした。また、2月24日にツイッターを開設した。
③会館における青少年関係情報提供システムの運用
情報機器の管理及び館内システムの保守等について、委託業者を通して行った。
④学習情報コーナーの再開
新型コロナウィルス感染対策のため閉鎖していたが、今年度の5月から再開した。

5 事業評価

（1）参加者の満足度

・当会館ホームページの閲覧による施設利用や主催事業に関する問い合わせが多く、インターネット活用の効果を感じられる。施設案内や事業内容などを明確に伝えているため、対象者にとって有益な情報として活用されている。
・（学習情報コーナー利用者の声）家での勉強はなかなか集中できないが、ここでは学習が進む。このようなコーナーを設けていただき、助かる。

（2）成果

・各種ツールを活用し、当会館の情報を頻繁に更新している。特に新型コロナウィルスに関連する情報（施設利用方法、主催事業の日程変更など）は、速やかに情報を発信することにより、対象者に状況を伝えることができた。

・ブログの更新回数を増やすと共に、投稿内容（話題）の幅も広げたため、閲覧者にとって社会教育に関する有意義な情報を発信することができた。

（３）課題

・情報提供システム運用における予算は、以前に比べて縮小傾向である。さらには、近年の物価高騰の影響も含め、限られた予算内でシステム運用が難しい状況である。本来であれば、職員用パソコン等は指定管理期間毎に全てを入れ替えたいところではあるが、中古パソコンを活用している。
・現在活用しているSNSは、ブログ・Facebook・YouTubeの3種である。青年層のブログ・Facebookユーザーは減少傾向であるため、他のSNS活用も検討したい。

６ 事業の様子

当会館ホームページ

当会館ブログ

当会館Facebookページ

当会館YouTubeチャンネル

当会館Twitter

担当　　山田 貴史

B 自主事業

(1) 青少年活動支援事業

「青少年会館友の会事業」

1 事業目標

群馬県青少年会館で活動するボランティア団体「青少年会館友の会」と連携し、青少年の健全育成活動を共催・協働で実施する。また、会員に青少年会館の各事業への参画やボランティア実践の機会を提供する。

2 事業概要

（1）期日：令和4年4月～令和5年3月

（2）参加対象及び募集人数：①指導者養成ユニット　社会人8名
②アドバンスユニット　大学生27名、高校生1名

（3）参加状況

①指導者養成ユニット「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」

ア 参加者合計　24名、　申込人数　24名（キャンセル0名）　※家族数12世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数		6	6				12	24

イ　スタッフ　・ボランティア1名　講師2名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）　24名×1日＝24名

②指導者養成ユニット「クリスマスリースづくり」

ア 参加者合計　8名、　申込人数　8名（キャンセル0名）　※内、家族数は2世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数			2				6	8

イ 講師1名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）　8名×1日＝8名

③アドバンスユニット「ゆめすくーる」

ア 参加者合計　79名、　申込人数86名（キャンセル7名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人・ 保護者	総計
参加者数10/2		48	24					72
〃 10/9		40	21					61
〃 11/6		42	24					66
〃 12/18		35	19					54

イ スタッフ　・ボランティア　28名

ウ 延べ参加人数（4回）　　参加者253名　友の会89人

3 事業実施のポイント

①指導者養成ユニット「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」
　会員が活動の幅を広げ、外部（生涯学習センター）の依頼にも指導者として活躍できた。
②指導者養成ユニット「クリスマスリースづくり」（昨年度未実施）
　会員が自主的に活動を企画し、親子等にリースの作り方や素材の扱い方を指導した。
③アドバンスユニット「ゆめすくーる」
　大学生会員が自主的に児童対象の体験活動を立案し、午前・午後で各3教室で実施できた。

4 日程

日時	会議等	午　前	午　後